

小笠原空港開設・航路改善特別委員会速記録

平成25年3月14日（木曜日）午後2時開会

出席委員（7名）

委員長	池田望君	副委員長	一木重夫君
委員	高橋研史君	委員	片股敬昌君
委員	鯉江満君	委員	杉田一男君
委員	稲垣勇君		

委員外出席議員（1名）

議長	佐々木幸美君
----	--------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	石田和彦君
教育長	伊藤直樹君	総務課長	江尻康弘君
総務課副参事	鈴木敏之君	総務課企画政策室長	湯村義夫君
自然管理 専門委員	岩本誠君	財政課長	今野満君
村民課長	斎藤実君	村民課副参事	村井達人君
医療課長	樋口博君	産業観光課長	渋谷正昭君
建設水道課長	増山一清君	建設水道課副参事	篠田千鶴男君
母島支所長	箭内浩彌君	出納課長	菊池元弘君
教育課長	佐々木英樹君		

事務局職員出席者

事務局長	セーボレー孝君	書記	菊池ひろみ君
------	---------	----	--------

議事日程

- 日程第1 小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について
- 日程第2 小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について
- 日程第3 その他
- 日程第4 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

- 委員長（池田 望君） ただいまから小笠原空港開設・航路改善特別委員会を開会します。
出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午後2時）

◎会議時間の延長

- 委員長（池田 望君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。
-

◎小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について

- 委員長（池田 望君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、12月定例会以後の小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課企画政策室長、湯村君。

- 総務課企画政策室長（湯村義夫君） 平成24年第4回村議会定例会以降の航空路関係の動きについてご報告いたします。

平成25年1月16日から19日、島部選出の三宅正彦都議会議員が来島されております。

1月21日、村長が石原宏高衆議院議員、また宮腰光寛衆議院議員、金子恭之衆議院議員、二階俊博衆議院議員、各先生を訪問しております。

1月22日、村長が宮路和明衆議院議員を訪問いたしております。

1月24日、村長が三ツ矢憲生衆議院議員、盛山正仁衆議院議員、山口那津男公明党代表、中川雅治参議院議員を訪問いたしております。

そして、2月14日、村長が議長とともに太田昭宏国土交通大臣を訪問いたしております。また、同日、村長、議長が中村明彦東京都議会議長を訪問いたしております。この国土交通大臣、また都議会議長に対しましては、法延長の要望書を提出し、その中で航空路の開設についてお願いしているところでございます。

2月19日、村長が議長と共に第84回小笠原諸島振興開発審議会に委員として出席いたしております。

以上、報告でございます。

- 委員長（池田 望君） この件について、質疑、意見のある委員は挙手してください。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 小笠原空路開設に関する質疑応答ということでまず、村長にお聞きしますけれども、昨年度、選挙によりまして、石原知事から新たに猪瀬知事にかわりました。当然のことながら、今まで航空路開設についても石原前知事にいろいろお願いしてきた経過もあると思います。そういった中で、まず交代された後、猪瀬知事と会う機会はあったのか。それと、もう一つ、猪瀬知事が小笠原空港に関してどういう考え方を持っているという感触がもしあれば、お聞きかせいただきたいと思います。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず、猪瀬新知事が誕生されまして、東京の市町村長、私だけではなく、ほかの市町村長の皆さんとお会いいたしました。それから、猪瀬新知事が直接的に小笠原単独の航空路のことでお話をしたということはないのですが、実は三宅村の羽田から飛んでおります飛行機の就航率が今、50%を切っているということで、どうも全日空が撤退したいというような意向から、今、ほかの伊豆七島に飛んでおります調布飛行場を平成25年度から使用するというようなお話が進んでおったようでございます。それに猪瀬新知事のほうにブリーフィングをした際、三宅に飛んでいく飛行機というのは小笠原まで飛んでいけるのかというようなことがその席で出たということは伝え聞いております。

以上でございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） そうすると、今までどおり小笠原空港に関しては、遅滞なく今後とも開設に向けた動きが進んでいくと、そういう感じを受けているという形でいいですか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まだ知事の本当の考えというのは、そこまで遅滞なく進んでいくかどうかということを含めまして把握しておりませんので、返還45周年の式典の日程調整のお話をほかのところでさせていただきましたが、4月に入りまして、なるべくそれ以降、早い時期に、できれば議長も同席という形の中で、私ども単独で猪瀬新知事への面会の機会をつくっていただくようお願いしてまいりたいと思います。返還45周年の式典のこと、そしてほかの諸課題とともに、そのときに航空路のお話もさせていただければというふうに思っているところでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 小笠原の悲願という位置づけからいっても、なるべく早い時期に村長、

議長がお会いして、小笠原の心情を吐露していただきたいと、要請していただきたいと思
います。

それと、これは確認の意味でもう一回村長にお聞きしますけれども、私、昨日、一般質問
しました。そして、今後の活動方針、一応お聞きしまして、村長はとにかく今、村にでき
ることは、島内にある小笠原航空路協議会、さらなる充実と、その取りまとめた後、P I
協議会に反映されるように、今年1年それに努力していくと、精進していくという、こう
いうお話でした。改めてお聞きしますけれども、村長の決意、もう一度お聞かせください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 一般質問の中での質疑応答でも申し上げさせていただきました。そし
て、この委員会の中で今、新知事についてのお話も出ました。東京都の従前の形でいいま
すと、課長職、一部、部長職が4月に異動するということがあります。また、7月には部
長職、それから局長ポストの異動ということがございます。それがどうなるか、人事のこ
とが1点。

小笠原航空路協議会は、総務局長が座長となりまして、それぞれ所管の各部長等で構成さ
れておりますので、その辺の動きにもらみ合わせながら、第一義的には一日も早く小笠原
航空路協議会を東京都に開催していただいて、そこで小笠原の早期開設必要性等々、発言
してまいりたいと、このように考えているところでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 昨日、村長も停滞という言葉を使っていましたけれども、停滞するこ
と自体、村民の情熱も冷めるという部分にも直結しますので、ぜひ村民アンケートをとっ
た昔の思いを熱いうちに届けていっていただきたいと、こういうふうに思っております。

そこで、それに関連してちょっとお聞きします。これから予算委員会等もありますけども、
ちょっと早い質問になるかもわかりませんが、私は前から航空路を進めていく上で、
やはり行政、執行部だけでは無理というか、思いが伝わらない部分もあるという中で、ぜ
ひ民間活力を進めていただきたいと、こういうお願いをしてきました。航空路推進のこう
いう思いが始まってから、やはり民間活力で村長も参加された期成同盟等、いろいろな民
間活力の中で一緒になって、行政と一緒に、要するに島民一体となった形で進めて
きた経緯もあります。そういった中で民間活力の活用というのは、私は大事だと思います。

そこで、企画政策室長に聞きますけれども、前からお話ししている民間活力について、企画
政策室でどのような形で今現在迎えているのか、今後の取り組みがあれば、ぜひお聞かせ

いただきたいのと、できれば話せる範囲で平成25年度、航空路調査検討についてどういうことを考えているかちょっとお聞かせください。

○委員長（池田 望君） 総務課企画政策室長、湯村君。

○総務課企画政策室長（湯村義夫君） 航空路の開設に向かって、民間の方々の活用ということに対しどのようなことをやっているかというようなご質問かと思います。平成24年度におきまして、航空路の開設に向けた小笠原航空路協議会等が余り具体的に進んでいないというようなこともありまして、村民の方の中には航空路に対する不安、あるいは不満と申しましようか、そういったものがあるということでございまして、そういった村民の方々に事業の航空路開設に向けた一つはどうしても他の事業と比べて非常に困難さが伴うんだというようなことも含めて、航空路に関する情報提供をさせていただくとともに、そのことによって、航空路にかかわる関心をより地元の方に高めてもらいたいということ。

そして、そのことで、なかなかすぐに効果があらわれるというようなことではありませんけれども、そういった作業を我々職員だけではなく、専門家に業務委託した中で、村民の方々に説明会を開催したりとかというようなことをやっております。そしてまた、このことは平成25年度以降も引き続き続けていくということは非常に重要だろうと思っております。予算特別委員会は今後開かれるわけですが、そういった内容の予算としてご相談させていただきたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長に改めてお聞きしますけれども、航空路、悲願と位置づけて45年経過したわけです。村長も感じているように、実際、事業主体が東京都という部分もあると思いますけれども、それを打破するには、島内一体となって取り組む姿勢を見せるというのが私は必要だと思います。そういう意味で村長もぜひ議会のほうにお手伝いしてほしいことは、議長を通してでもいいですから、どんどん言っていただきたいと。そして、島内の盛り上がりが本当に東京都に伝わるような形で今後ぜひ進めていっていただきたいと。それが一歩ずつでも前進する、まず最低限の仕事だと思います。そういう意味で、今まで以上にぜひ熱意を持って取り組んでいただきたいと、こう思います。改めてお聞きします。

○委員長（池田 望君） 村長、森下一男君。

○村長（森下一男君） 今ご指摘いただいたことは、まさに杉田委員のおっしゃるとおりでございまして、私どもは村民の皆さんから見て、停滞しているというふうに受け取られていると私も感じておりますので、とはいえ、私どもは村で独自の調査委託もして、何とか航

空路を開設するための努力をしている、そういうもののまず情報を、村はこういう方向でやっている、考え方を持っているんですよというものを、村民の方には開示していきたいと、第1点はそう思っております。

今ご指摘を受けましたところは、この特別委員会がございますので、正副委員長とも、もちろん正副議長ともということになりますが、主体的には正副委員長のお二方といろいろこの問題についての意見交換をさせていただいて、円滑にこれが進んでいくよう今後も努力してまいりたいと、このように考えております。よろしく申し上げます。

○委員長（池田 望君） 片股敬昌委員。

○委員（片股敬昌君） 2月の東京都議会で小笠原空港問題に対する質問が出ていたと思うんです。それに対する答弁はどんな内容であったか、もしご存じでしたら。後で結構です。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑はございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） よろしいですか。今の答弁は保留ということで、後ほど答弁をさせます。

質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を閉じます。

◎小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について

○委員長（池田 望君） 次に、日程第2、小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） お手元にお配りいたしました資料に沿いまして報告させていただきます。

海路アクセスの向上について。

1番が平成25年度下期のおがさわら丸のスケジュール案についてでございます。

平成25年3月1日付で小笠原海運より村長宛てスケジュール案の提示がございました。

概要につきましては、全体の運航スケジュールを考慮しながら、土曜日の東京着を極力避ける。

10月から2月は、従来どおり6日便を基本とする。

年末年始は、12月28日東京発から1月5日東京着までの間、折り返し便3航海とする。

ドックは、1月20日から2月1日までの13日間とする。

ドック明け初便、来年ですので、2月2日東京発となります。こちらを平成24年度と同様、1泊便とする。

3月は、平成24年度、今年度と同様、折り返し便2回の後、東京停泊1泊を繰り返すこととする。これにより、3月5日東京発から3月31日東京着までの間、小笠原着木曜・日曜日の週2便となる。既に今年も3月の運航が始まっております。運航の仕方、また小笠原の木曜・日曜着というものは、今年と同じ内容で通知を受けております。

これを受けまして、3月4日、小笠原航路検討委員会委員宛てに資料を配付いたしまして、現在、検討を依頼しているところでございます。

次に、おがさわら丸新造船に向けた動きでございます。

平成25年1月10日、小笠原航路検討委員会各団体から、新造船に対する意見、要望を取りまとめました。

平成25年1月23日、都庁において開催されました東京都離島航路地域協議会第1回小笠原航路部会・幹事会に村長及び企画政策室長が出席しております。

お手元にお配りいたしました資料の1をご覧くださいと思います。

最初に式次第がございまして、3枚目になります。

小笠原航路部会の委員名簿がございまして、部会、それから幹事会とございまして、部会長が東京都の総務局多摩島しょ振興担当部長の嶋原さん、副部会長が森下村長がございまして、その下に幹事会というものがございまして、村からは総務課長、企画政策室長、産業観光課長が幹事会に入っております。幹事長は、東京都の総務局行政部振興企画課の松川課長がございまして、

この内容につきましては、2ページ後をご覧くださいと思います。

東京都離島航路地域協議会小笠原航路部会設置要綱がございまして、

第2条に部会の役割というものがございます。部会は、離島航路に関する次の事項について協議等を行い、その結果を協議会に報告する。代替船の規模、船内施設・設備等、代替船の建造費、代替船の建造時期、代替船の運航形態、その部会において必要と認める事項。

その3つ下ですね、第5条に幹事会がございまして、幹事会は、先ほど説明いたしました第2条に掲げる事項のうち、部会から依頼があったものについて、調査、検討及び調整を行

い、その結果を部会に報告すると、そのような役割を担うことになります。

それから、4ページ後ですか、ご覧いただきたいと思います。

小笠原航路部会予定議案と開催スケジュールというものがございます。1月23日に第1回が開かれまして、資料として、議事内容、資料がその後に添付してございます。次回、来週3月19日に同じく都庁で幹事会が開催されます。こちらでは地元からの要望、意見、課題に対する対応の方向性、代替船に求める主な機能についての意見交換、改善の基本的方向性の確認、検討項目及び検討スケジュールの再整理というものが議論される予定になってございます。小笠原村からは、幹事会のうち湯村企画政策室長と渋谷産業観光課長が出席する予定になってございます。

また、先ほどの報告の文書のほうに戻らせていただきます。

同日、平成25年1月23日、新造船の建造についての要望書を村長、議長の連名で都知事宛てに提出しております。

平成25年2月8日、小笠原航路検討委員会を開催いたしまして、小笠原航路部会・幹事会の報告及び今後の意見・要望集約の進め方についての意見交換をしております。

次に、平成25年2月26日、小笠原航路検討委員会を開催いたしまして、先ほどご説明いたしました3月19日開催の第2回小笠原航路部会・幹事会に向けた基本的な要望事項の取りまとめを行っております。内容につきましては、船体規模、定員、航海時間、貨物、その他についてでございます。

この要望事項の取りまとめを行った結果が、資料2としてお配りさせていただいております。

こちらに小笠原の航路改善に向けた小笠原村の要望を幹事長宛てに提出する予定になっております。要望、意見等といたしまして、まず船体規模につきましては、要望事項といたしまして、実現可能な最大限の大型化、こちらは事前に情報提供いただいた現在の二見港岸壁において、新ははしま丸の大型化も踏まえた限界値として1万トン級、最長160メートルを航路検討委員会では示したところでございますけれども、船幅、コスト、旋回性能など、様々な要因の基に大きさが決定されることから、具体的な数字による要望とはいたしませんで、「より大きく」という言葉を要望の基本といたしております。

次に、定員につきましては、要望事項、実定員1,000人、説明につきましては、第1回部会・幹事会において、定員の設定における参考として、村内の宿泊能力について、村からの資料も提出いたしておりますが、生活路線といたしましての村民の船席確保も含めて、

実質的な定員1,000人を要望するものでございます。定員も、船室の快適性等を確保した上でありまして、船体の大きさに関わることは承知しております。より具体的な提示を受けた際には、航路検討委員会においても再度協議させていただきたいとつけ加えてございます。

次に、航海時間についてでございます。要望事項、より早くを基本に、24時間以内の実現、さらには利便性の向上及び村内滞在時間の延長を図るため、竹芝発正午、父島着午前10時を実現する22時間を目指していただきたい。航海時間も、船体構造、経済性などから実現可能な限度はあることは承知しておりますが、長時間の航海を強いられる村民、観光客の思いを汲んだうえでの要望でありまして、技術的な側面などからの協議もさせていただきたいと考えてございます。また、父島に早く到着することによりまして、母島へのアクセスも早い時間帯に行われるということも考えた上でのことでございます。

続きまして、貨物について、要望事項、本土側からの貨物は生活必需品から建設資材、車両に至る多彩な物品が運ばれており、また村側からの貨物の積み出しの多くは鮮魚であり、それらの実態を踏まえ、本土側からの貨物に滞りがなく、盛漁期においても確実に出荷できるスペース、電源を確保していただきたい。

説明につきましては、貨物の実態については、把握し難い部分があり、第1回部会・幹事会資料においても、年間の総量しか示されていませんでした。今後の貨物需要も見極めた上で、今後協議させていただきたいと考えております。

なお、今回の航路検討委員会の意見集約の前提として、ローロー船はできないという説明をして、取りまとめは行いましたが、着発便が増える傾向にもある中、効率的かつ客室の快適性にもつながる新たな貨物の積載方法等を検討していただきたいと考えています。

その他、客室につきまして、また共有スペース、シャワー、トイレ、喫煙所、コンセントの増設、デッキスペースの改善、バリアフリー機能の充実、またその他貨物という項目をもって、今回、幹事会に小笠原村の要望として提出する予定になってございます。

また先ほどの資料のスケジュールのところをご覧いただきたいんですけども、この後、第3回が5月ごろ、4回が7月ごろ、5回が9月ごろ、6回が11月ごろという形で調整の機会が予定されてございます。何度か要望事項に対し協議がされるよう調整を進めていく予定でおります。

また最初の資料にお戻りください。

続きまして、ははじま丸の更新についてでございます。

平成25年1月9日、父島母島間アクセスを考える会が伊豆諸島開発に、ははじま丸更新についての要望書を提出いたしております。

平成25年1月15日、父島母島間アクセスを考える会から、村長、議長宛てに、ははじま丸更新についての要望書を提出しております。

平成25年1月23日、父島母島間アクセスを考える会が、都知事宛てに、ははじま丸更新についての要望書を提出しております。都知事宛てに提出された要望書を資料3として添付しております。内容をご確認いただきたいと思います。

次のページ、お願いいたします。

平成25年2月13日から16日にかけて、父島母島間アクセスを考える会が、伊豆諸島開発(株)とともに母島航路新造船検討に係る先進事例の視察を実施しております。視察先は、沖縄県那覇市、栗国村、座間味村でございます。

その下の資料は、毎回続けて添付させていただいておりますおがさわら丸とははじま丸の各月の燃料油価格変動価格調整金の推移でございます。

説明につきましては以上でございます。

○委員長（池田 望君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手してください。

佐々木幸美君。

○委員外議員（佐々木幸美君） 先ほど来、総務課長から東京小笠原間の正午発、10時着という、22時間という一つの案が出されているんですけども、私は非常に素晴らしい案だと思うんですけども、そうするとこれは現在、速力が21ノットぐらいで走っているんですけども、もしこれが可能な時間であるとする、おがさわら丸の速力は何ノットぐらいで走るようになるのでしょうか。

○委員長（池田 望君） 産業観光課長、渋谷君。

○産業観光課長（渋谷正昭君） 先ほどの資料の2につきましては、担当の職員と幹事である私のほうで主にまとめたのですが、一つは、22時間というのはかなり厳しい数字の要望であることをまず我々は承知しつつ、航路のあり方として、そういった要望を上げております。ですので、要望のところがありました24時間以内の実現というのは、何とか実現してもらいたいという内容でございます。

それと、実際に航路のノット数というのはなかなか難しいのですが、東京湾を出るまでと、それから小笠原の二見湾に入ったところを抜いた速力としては、恐らく24とか、25という

ノット数にならないと実現しないんだらうと思っていますが、またそのあたりは24時間ならどれくらいか、22時間ならどれくらいかというのは、今度の幹事会に行った際にも、小笠原海運と少し話をしてみたいと思っています。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員は挙手してください。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長に忌憚のない形でお聞きしたいと思います。おがさわら丸の新造船計画、これが一步踏み出したということは、小笠原村にとって非常にいいことだと思いますし、これから世界自然遺産がますます発展してきて、そして小笠原の振興がなされれば、ますます重要性は増してくると思います。

ただ、今もらいました資料を見ますと、それぞれの分野でいろいろな要望があり、特に観光客の生の声は結構厳しいものがありますよね。そういった中でこれをまとめていくというのは、航路部会、幹部会でも、多分相当な紆余曲折があると思います。しかし、小笠原村にとって、なるべく早い就航が一番望ましいわけでありまして、おがさわら丸の新造船計画が一步踏み出した中で、今現在、村長の中ではどういう形で進めていって取り組むのが一番いいとお考えですか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） この件につきましては、東京都の皆さんともいろいろ相談させていただいて、部会・幹事会という枠組み、そして平成25年12月には計画案を策定したいということで、先ほど総務課長が説明しましたタイムスケジュールできちきちというふうなことになるっております。

私は、村民の皆さんから、ほかのことでもそうですけれども、ははじま丸のことでもそうでした。村民の方がまずどういう船を望んでおられるのか、その意見集約をして、それを村としてはどう考えてやっていくかということが、今度の幹事会のまず第1回の先ほど資料で示したものでございます。そこからおのずと何回かの議論を経て、現実的な12月末に案が固まってくるというふうに思っておりますが、観光客の視点等も、産業観光課が入っているという意味合いはそこにもございまして、それらを拾い上げながら、タイムスケジュールに乗ってやっていただける。一步ずつのことがきちんとスケジュール的にも示されているなというふうに感じております。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 海路の確保というのは、航空路開設がなるまでは、小笠原の生命線と

して非常に大きな重要性を持っております。そういった中で先ほど航路の部分でも村長にお話ししましたけども、ぜひ航路、海路とも、猪瀬新知事とお会いして、実情を本当に真摯に訴えていただいて、一步でも先に進めるようにぜひお願いしていただきたいと、こう思っております。また、そのためのお手伝いは、正副委員長も含めて、正副議長も含めまして、先ほど村長がおっしゃいましたように、あらゆる力を結集してやる必要があると思いますので、ぜひそのところを村長にはしっかり進めていただきたいと、こう思っておりますので、よろしくお願ひします。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑はございませんか。

稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 質問がほかになければ、今、総務課長から説明がありましたけれども、2月13日から16日、14日から丸3日間、沖縄のほうに父島母島間アクセスを考える会の代表として、伊豆諸島開発の方々と一緒に視察をしたことを、簡単ではありますが、報告がてら執行部のほうに質問させていただきます。

2月13日から2月16日にかけて、沖縄の周辺離島航路に就航する定期船3隻を乗船視察してまいりました。これらの定期船は、全長が65メートル程度で、総トン数も大体500トンのフェリータイプの貨客船ですが、ははじま丸と大体同じぐらいの総トン数にも関わらず、船体としてはははじま丸より二回りぐらい大きく感じました。昨年末から関係機関に父島母島間アクセスを考える会から要望書を出しております。目指す母島航路の新造船も、この沖縄のフェリーと同じぐらいの船体のボリュームがないと、要望書が目指す仕様にならないのではないかと、そういう印象を受けました。

また、今回、乗船いたしました沖縄のフェリーは、操船の可能性もすばらしく、また船体動揺対策も、就航している航路の実情に合わせて工夫がされております。ははじま丸新造船でも参考になる部分がたくさんありました。船長、船員から、丁寧に説明を受けまして、これからの要望活動の中でもそれを生かしていきたいと考えております。

母島航路は、法律上、遠海航路に指定されて、設定されていますが、実態としては、外洋を走る近海航路に近い。波が立つのではないかとの印象を日ごろから持ち合わせております。したがって、乗り心地の観点、すなわち船酔い対策からも、今回の新造船は父島・母島双方の港で使用可能な最大の大きさにするべきであると強く感じております。

しかし、これまでより大きな船体、そしてすぐれた操船構造を持たせるためには、相応の建造費用がかかります。そして、長期にわたってのランニングコストの確保も必要になっ

てきます。母島航路は、今後も赤字航路となることは間違いありません。損失額を拡大させるような改善はなかなか難しいとは思いますが、そもそも船を大きくすることに様々な制限があることも今回乗ってみて認識いたしました。

しかし、生活の全てをこの船に頼るしかない我々母島島民にとって、生活の向上のためにも、何よりも将来の母島のためにも、今回の新造船がよりよい船となるよう、この建造費用とランニングコストの確保について、相応の財政負担を関係機関に執行部とともにお願いしていただかなければならないと感じてきました。

また、いずれとしましても、今の母島沖港では、岸壁の長さや水深が不足しています。父島二見港では、同時に先ほど新しいおがさわら丸の計画、要望がなされましたことも踏まえて、計画が進行しています。おがさわら丸との兼ね合い、これは12月に一般質問させていただいた中でも言いましたけれども、岸壁の長さには課題があります。それら母島航路の新造船が少しでも大きい船となって就航できるよう、東京都に港湾改善するよう村長、執行部、我々議会もそういう要望活動をしていただかなければならないと思います。

そこで、村長にお伺いいたします。建造費とランニングコストの確保について、関係機関に要望すべきと思いますが、どのような考えをされているのでしょうか。それと、12月にも質問しましたけれども、先ほど言いました沖港と二見港の両港の改善も必要と思いますが、この2点よろしくお願いします。

○委員長（池田 望君） 村長、森下一男君。

○村長（森下一男君） 母島の皆様のははじま丸の新造船への思いというのは、1月にいただきました父島母島間のアクセスを考える会の要望書、あそこに全てが込められると考えておりますので、私はその思いを全面的に受けとめて、このことに進んでまいりたいと。それ以前からも思っていることですが、改めて思ったところでございます。

今、稲垣委員がご指摘になりましたけれども、船体を大きくすることには、やはり物理的な限界がございます。経費的にも限界というものは自からあるわけですが、皆さんの願いを極力反映したという形のものでお願いしてまいりたいと、こう思います。

それから、今ご指摘ありました母島航路というのは、これからも補助いただかなければならない補助航路ということは当然のことながら村も考えておまして、この建造の費用というのは、ほかの離島のことも勘案した上でいろいろ判断なされることだと思っております。しかしながら、こういうことを我々が熱心をお願いすることによって、乗り越えていただかなければならない課題であると思います。

この問題というのは村だけでは解決できるものではありませんので、今、議会も一緒にと
言っていたらということは大変力強いことだと思います。一にも二にも、できる
だけよい船、大きい船、皆さんの願っている船に近づけるために、今までもこの問題につ
きましては、東京都、そして運航会社等々といろいろな協議を重ねてきました。いよいよ
テーブルに乗ってまいりましたので、これからはより具体的なお願いになろうかと思いま
す。今般の予算では、運航会社の経営改善のための株式の増資をお願いしておりますので、
まずこういうできるところから我々も手を打ち、そして国、東京都に要望してまいりたい
と思うところがございます。

先ほどの小笠原航路部会の委員名簿を見ていただきますと、総務局だけではなくて、港湾
局等々も入っておりますので、全庁的なところで東京都も取り組んでいただけるという姿
勢は、このような形で出ておりますので、これからも忌憚のない意見交換をしながら進め
てまいりたいと、このように考えているところであります。

○委員長（池田 望君） 稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） ぜひよろしくお願いいたしたいと思います。それで、今回、視察して
きた中で、将来の母島航路がどうあるべきか、そこら辺も感じてまいりました。特に母島
航路へのフェリーの導入というのは、以前からいろいろ協議された中で、今の状態ではと
てもフェリー化というのは無理だというのが、今回行ってきて、それは肌で感じてまいり
ました。

というのは、港内が50センチ以上の波が立つと、フェリーはつけられない。冬場はほとん
ど欠航、そういう状態でありますので、やはり将来のことを考えると、港の中の波対策を
きちんとしてからでないと、このことは語っていかれないことだろうと感じてきました。
ただ、いつまでも旧態依然とした貨客船が就航すれば、それでよいというわけではないと
思います。

それで、高速船を導入するとか、いろいろこれから若い世代が考えていくことだろうと思
いますけれども、今回このことを含めて、正面に残していくことも大事だろうと考えてお
ります。将来、ははじ丸が、今度新しい船がどういう形で大きくなって、我々母島の島
民にとって、よりよい船であるように期待して、発言を終わらせていただきます。ありが
とうございました。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑はございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（池田 望君） 次に、その他の事項で何かございませんか。

佐々木幸美君。

○委員外議員（佐々木幸美君） いつも思うんですけれども、ははじま丸が乗船するところですが、道路を隔てて、待合所があるわけですよね。これは非常に危険ということは、これは今すぐ改善できないと思うんですけれども、船が出る前、あそこへかなり長い列ができるわけですよね。最近特にお年寄りの観光客も増えていきますし、それが夏場、また雨の日、道路の向こうにいと、乗り遅れてしまうと感じられまして、無理に並んでいる状況があるわけですよ。10時半に出るので、9時ごろから荷物を置いて、延々として待っているような状況があるわけです。

そこで、道路の内側にあるかなり幅広い遊歩道を待合所というか、日陰がとれるよう、また多少工夫して、ベンチがあるようだと、これからあそこで待っている人も、そんなに早く来なくてもいいしという感じもあるんですけれども、その辺のところのですね、決められたスペースがないので、何とか工夫していただいて、その辺にちょっと日陰のある待合所みたいなのができないかと思うんですけれども。以前、荷物置き場がさらされているということで、とりあえずコンテナの入れる屋根だけつくってあるんですけれども、何かそういう形でもいいですから、あそこで1時間も待たなくてもいいような方法をぜひとっていきたいと思うんですよね。

幾ら船が2時間で行くとしても、あそこで1時間待っていれば、3時間かかる訳ですよ、実際のところ。そういうことになると、あそこでいろいろな人の話を聞くわけですよ。早く乗せればいいのに、必ず15分前しか乗れないわけですよ。私たちも伊平屋とか、伊是名に行ったんですけども、あそこは村営でやっていますよね。これはちょっとははじま丸に適応するか、しないかは別ですけども、切符を買った人が領収書ももらって、そのまま船の中に入って、出航まで待っているというような状況がとられているわけですよ。

ところが、今お話ししたように、ははじま丸だと、延々として、1時間、1時間半待って

いる人も往々にしているわけですよ。まして団体客の場合も、短い上陸期間の中に、精いっぱい、本当は時間間際まで島を散策していたいというのが心情ですけども、結局そういうこともできなくて、とりあえず席をとる。待つ場所を確保するという状況ですよ、陸上で。

ですから、その辺のところを今後考えていかなければ、幾らいい船ができて、観光客の不満というものはその辺に出てくると思うんですけども、村長、よくわかっていると思うんですけども、とりあえずお答えしてください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下一男君。

○村長（森下一男君） まさに議長のおっしゃるとおりで、母島だけでないですよ、父島でもそうですね。乗る前に席を確保するためにあそこに荷物を置いて、あの暑い炎天下の中、父島からはお弁当でも持っていたら、食中毒のことも本当に心配しなければいけないような状況が発生しておりますので、それは切実に感じております。

今、議長が言われた一つは設備面でどういうことが可能なのかということが1点と、あとは、伊平屋なんかでもありましたように、船の中の、空調がきいた中に早く乗せてあげることができないのかという面の両面で、支庁とも、それから運航会社とも、相談をまずしたいと思います。観光という観点からも望ましいことではとてないと思っていますので、まずは相談ということから始めたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（池田 望君） 佐々木幸美君。

○委員外議員（佐々木幸美君） 世界自然遺産、世界自然遺産ということキャッチフレーズにしても、そういうできるところから改善していかないと、結局それがまたみそになってくると思うんですよ。特に50代、60代、その後半の方もかなり最近は目立つと思うんですよ。あそこに並んでいると、さっき言ったように、そういう話がちらほら入るわけですよ。今日港湾局の方も来ておられるので、ぜひその辺のところをご理解していただいて、陳情等があれば、また今度、離島港湾部長も来られるということですから、現場を見ていただいて、ぜひ協力してやっていただきたいと、このように後ろを向いて言うのもあれですけども、ひとつよろしくお願いします。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑は。

稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 今、報告しましたけれども、今回、沖縄に行った中で、今、議長が言ったことも含めて、実は言おうと思っていたのです。というのは、今、おがさわら丸から

ははじま丸に行く日よけの通路がありますよね、あれが沖縄の離島に行くと、必ずついていました。村の職員とも話したんですけれども、やっぱりこれだけは要望していこうねということで話をしたんですけれども、今回報告の中で忘れてしまいました。

伊平屋に行っている船のところまで、運天港、あそこまで行ったんですけれども、以前には日陰の通路はありませんでしたけれども、今回は新しいのがありました。やっぱり沖縄の空路もですけれども、そういう点で沖縄はかなりそういう港湾の設備に関してお金をかけている、そういう印象を受けましたので、要望活動の中で執行部も含めてやっていくべきだろうと思います。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑はございませんか。

一木重夫副委員長。

○副委員長（一木重夫君） 一つだけ、ははじま丸の新造船にあわせて、船の快適性の向上とか、利便性の向上も含め、もう一つ、ははじま丸の新造船の就航にあわせて、母島の東港の利活用という部分で、臨時でもははじま丸がとめられるような東港の整備ということは今後東京都のほうに要望していくということは考えられないですか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下一男君。

○村長（森下一男君） 先ほど稲垣委員から今度の船ができて、まだ課題は残るという話ですよね、将来の。そして、佐々木議長からも、前から東港の活用ということは言われているわけです。議会でも以前、ははじま丸を東港につけられないかということで動いた経緯があります。その中でのいろいろな難しさもわかっているのですが、改めて議会もそういうふうな、委員会なのか、私のほうから言うのはおこがましいですけれども、そういうのをつくっていただいて、今度、ははじま丸新造船ができて、20年、30年運航するわけですよね。その先はやっぱりほかの地域のように1島2港であれば、欠航というのはもっとも少なくする可能性があるわけですから、総体的な今の整備をしてきた経緯もございまして、そういうことをみんなで勉強もしながら、その辺は要望するときは着実にということを考える必要があるのだろうと、このように思います。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員はいますか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑がないようでしたら、先ほど答弁を保留にしているものがございまして、答弁をさせます。

総務課企画政策室長、湯村君。

○総務課企画政策室長（湯村義夫君） 先ほど片股委員から、平成25年第1回都議会定例会におきまして、航空路の質問があったようだが、どのような答弁があったかというご質問でございました。

第1回定例会におきまして、島部選出の三宅都議会議員から、「本土への交通アクセス改善は小笠原にとって最重要課題です。特に航空路開設は、島民の長年の悲願であり、開設に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。小笠原諸島の交通アクセス改善に向けた取り組みについて伺います」というご質問がございまして、それに対しまして、東京都の笠井総務局長のほうから、「東京都は、航空路について、平成20年に小笠原航空路協議会を設置し、検討を行ってまいりましたが、自然環境への影響をはじめ、費用対効果、運航採算性など、さまざまな課題があることから、引き続き慎重に課題整理を進めてまいります」という内容の答弁があったところでございます。

以上でございます。

○委員長（池田 望君） 答弁についての説明がありました。よろしいですか、片股委員。

ほかに質疑はございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（池田 望君） それでは、次に本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りいたします。

お手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するため、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることを決定いたしました。

◎閉会の宣告

○委員長（池田 望君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、小笠原空港開設・航路改善特別委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

（午後 3 時）